

交流協会 2014 日本語教育研修会

「自律学習と学習ストラテジー・トレーニング：学習者と教師が考えること」

早稲田大学大学院日本語教育研究科 宮崎里司

目的

この研修会では、学習者が、より積極的かつ主体的に日本語を学ぶ上で不可欠な「学ぶ力」を、「自律学習」と「学習ストラテジー」というキーワードで考えていきます。具体的には、「自律学習とは何か」、「学習者に自律学習能力を習得させることは、教師にとってどのような意味があるのか」、「自律学習と学習ストラテジーの関係とは何か」などを、講義やワークショップを通して意識化しながら、学習者に対するトレーニング・プログラムをデザインします。また、近年、注目されている「反転授業」を、どのように、日本語教育に応用するのかについても、ワークショップで考えていきます。

研修概要

(講義)

- 1 学習(者)ストラテジーと教師ストラテジー
- 2 なぜ自律学習が必要なのか
- 3 学習ストラテジーの分類と習得・最重要ストラテジーとは何か
- 4 学習者の個別性とは
- 5 外国人力士の日本語習得からみた自律学習
- 6 自律学習を促進させる教室活動とは
- 7 学習ストラテジー・トレーニングとは
- 8 反転授業から、これからの日本語教育を考える

(ワークショップ)

反転授業を採り入れた自律学習

研修スケジュール (台北・高雄とも同一スケジュール)

- ① 9:40-11:00 講義「自律学習と学習ストラテジー」
- ② 11:00-11:15 休憩
- ③ 11:15-12:00 ワークショップ 反転授業を採り入れた自律学習
- ④ 12:00-12:30 質疑応答、アンケート記入

講師紹介

社会連携に関する最近の活動

- ① 2007年度国土交通省「北関東圏における多文化共生の地域づくりのあり方に関する検討委員会」委員
- ② 地域学を、地元の小・中・高校での教科として導入する試みおよびその啓発
エクステンションセンターにて、墨田区提携講座「すみだ学」を開講(2006年～) -
- ③ オープン教育センター「すみだ学」
エクステンションのすみだ学が、学外者用の講座であるのに対し、この講座は、学部生対象の単位認定科目として設置(2009年～)
- ④ 2007年度久里浜少年院国際科担当法務官との懇談会の立ち上げ(久里浜モデルの構築)
- ⑤ 文化庁委嘱事業
- ⑥ - 1 2006年度「地域日本語教育支援事業(日本語教室設置運営)」
「外国人生徒学習の会」設置運営 教科学習に対応する基礎的な日本語の学習支援。
- ⑥ - 2 平成19年度「地域日本語教育支援事業(連携推進活動)」
「地域の教育力としての日本語学習支援活動と日本語学級の連携推進の試み-夜間中学の役割再構築化に向けて-」
2008年3月1日(土)すみだ中小企業センター サンシャインホール 平成19年度文化庁地域日本語教育支援事業(連携推進活動)シンポジウム(多文化共生地域で日本語を学ぶことと教えること)「地域の教育力としての日本語学習支援活動と日本語学級の連携推進の試み-夜間中学の役割再構築化に向けて-」
- ⑥ - 3 2007年度「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業(退職教員を対象とした日本語指導者養成)
- ⑥ - 4 2008年度(2008年)「地域日本語教育支援事業(日本語教室設置運営)」
「外国人介護ヘルパーの日本語支援教室」設置運営
賛育会(墨田区太平町)たちばなホーム(立花)、はなみずきホーム(八広)などの、特別養護老人ホームで働く、日本人配偶者を持つ外国人介護ヘルパーへの日本語教育を支援し、生活者としての外国人の地域参加と、地域の福祉事業の活性化を目指す。また、日本語教育を通じて、介護人材の育成や確保を支援することも目的とする。あわせて、フィリピン人をはじめとする外国人が、地域社会の一員として社会参加する上で不可欠な、職場の日本語を地域で学べる環境を整備するこうした対策によって、単なる受益者負担だけではなく、地域全体で考えていく視点を醸成させることも目的とする。
- ⑦ 2011年～
友志会花の舎リハビリステーション(栃木県野木町)にて、EPA 医療福祉候補者のための日本語教育支援
- ⑧ 2012年～
芳香会青嵐荘特別養護老人ホーム(茨城県古河市)にて、EPA 医療福祉候補者のための日本語教育支援
- ⑨ 2013年～

法務省矯正局成人矯正課との連携事業

外国人受刑者のための矯正処遇プログラムにおける日本語教育カリキュラム構築支援

講義

1 学習(者)戦略と教師戦略

学習(者)戦略とは何か

→学習者が、自らの学習に働きかける行動

学習戦略と教師戦略との関連

用語：学習戦略か学習者戦略か？

Selinker, L. (1972) Interlanguage. IRAL 10/2, 209-231 頁

理論上の疑問

- 1 なぜ、学習戦略研究の出発点が、いつもオックスフォードの学習戦略目録 (Strategy Inventory for Language Learning: SILL) なのか
- 2 なぜ、直接戦略と間接戦略の間にはヒエラルキーが見られ、分類項目が不均衡なのか
- 3 なぜ、SILL では、習得の必然性が高い戦略と、そうではない戦略が混在しているのか
- 4 なぜ、ある特定の学習者を想定した編成になっているのか

実践上の疑問

- 1 なぜ、学習戦略の意義を強調し、コースデザインを考慮したプログラムが少ないのか
- 2 なぜ、学習戦略を盛り込んだ教科書や教材が少ないのか
- 3 なぜ、学習戦略のトレーニングを目的としたコースが十分開発されていないのか
- 4 なぜ、現職者研修プログラムでは、学習戦略が必須項目として入っていないのか
- 5 なぜ、日本語教育能力検定試験や日本留学試験では、学習戦略が検定項目として考慮されていないのか

2 なぜ自律学習が必要なのか

「学習者に、自らの学習に責任を持たせる」とは、どういう意味か

3 学習ストラテジーの分類と習得・最重要ストラテジーとは何か

学習ストラテジーのカテゴリー

直接ストラテジー

学習の対象に働きかける (認知ストラテジー)

学習対象を理解しようとするストラテジー

記憶に働きかける (記憶ストラテジー)

記憶するストラテジー

環境を保持する (補償ストラテジー、またはコミュニケーション・ストラテジー)

談話の中で問題が起きたとき、調整や修復を施し、談話環境を保持するストラテジー

間接ストラテジー

社会的環境に働きかける (社会的ストラテジー)

ネットワークを構築するストラテジー

感情的な環境に働きかける (情意ストラテジー)

感情的障害を取り除くストラテジー

学習の条件に働きかける (メタ認知ストラテジー)

学習の計画, 実行, 評価に関わるストラテジー

直接 (認知) or 間接 (メタ認知)

4 学習者の個別性とは

学習者の個別性 (Individual Learner Differences)

学習ストラテジー、教師ストラテジー、自律学習、学習リソース、学習スタイル・認知スタイル (場依存・場独立など)、ビリーフス (Beliefs)、言語適性 (aptitude)、動機、レディネス (Readiness)、スキーマ (Schema)

学習スタイルとビリーフスについて、実際に調べてみよう。

5 外国人力士の日本語習得からみた自律学習

外国人力士の日本語習得の特徴

A 日本語教師に代表されるような特定の習得管理者が存在しない

一般の日本語学習者は、教師によってデザインされた教師主導型の授業計画に従って、学習を進めるのが普通であるが、外国人力士の場合、教師監督下での学習経験がない。自然習得の場合、教室場面での日本語教師による接触がなく、日本語の教科書を系統立てて使用した経験がない。さらに、日本語能力に関する客観的な評価（習熟度や理解度テスト）を受けた経験がない

B 入門時から、相撲界事情をはじめとする豊富な社会文化情報を処理している。また、必ずしも、文法能力からの習得順に従っているわけではない

外国人力士は、一般の学習者と比べ、国技としての相撲の歴史、風俗、習慣、しきたりといった、「相撲界の日本事情」、または社会文化能力のインプットが豊富であり、一般の学習者と比べ、インプットする機会をはるかに多いといえる。「社会文化能力の知識なしにはコミュニケーションができない、またコミュニケーションができないと、狭い意味での言語の習得もありえない」（ネウストプニー 1995）という主張が、この社会文化情報の重要性を示唆している。習得順位に関しては、クラッシュンの習得順位仮説（Natural Order Hypothesis）を再検討する必要がある。

C さまざまな日本人ネットワークが形成されている

ネットワークを築くストラテジーは、学習ストラテジーの中でも、習得に大きく影響する（ネウストプニー 1995、宮崎・ネウストプニー 1999）が、相撲界に入った外国人力士は、様々な日本人とのネットワークを構築している。その中でも、部屋の親方、兄弟子、付け人、おかみさんと呼ばれる親方夫人、床山、行司、呼び出し、教習所などをはじめとする相撲協会関係者が、もっとも頻繁に接触する中心の構成メンバーであった。さらに、こうしたネットワークに加え、ちゃんこ番になると近所の商店街の人々との付き合いが加わる。また、本場所が始まると相撲関係者、タニマチ、それから一般のファンなどとのインターアクションも増える。

D 目標言語に浸りきる理想的な習得環境が提供されている

外国人力士は、朝稽古、ちゃんこ番、兄弟子の世話、電話番をはじめとした部屋で、常に目標言語に漬け浸された環境が提供され、インターアクションが求められている。

さらに、番付が上がっていくにつれ、相撲協会や後援会などとの接触のバリエーションも増える。例えば、横綱に昇進した場合には、伝達の使者に対する口上をはじめ、挨拶、色紙書き、インタビュー、各界で活躍する日本人との対談などが加わってくる。

E 日本語習得に対する強い動機付けがあり、それにより言語習得が促されている

学習の動機付けは、言語学習を成功させる要因の一つである。言語習得には、実際に使用するインターアクション場面が必要であり、目標とする実質行動がなければならぬが、

相撲界で生き抜くという切迫した状況が、強い学習動機を産む結果となっている。さまざまなインターアクション場面で、日本語を使うことが、言語習得を促進させる動機付けに繋がっている。

F さまざまな学習リソースを、創意工夫しながら、自らの習得環境に取り込んでいる

一般の日本語学習者は、教室場面で教師によって管理されているため、教材は教師から与えられるものだと確信している場合が多い。一方、外国人力士は自分の周りにあるものを巧みに利用していることが明らかになっている。たとえば、インタビューした力士全員が、番付表を使って対戦相手の四股名を覚えたと答えており、ブラジル出身の力士は、テレビの時代劇で日本語を覚えたと報告している。カラオケもまた、後援会の方々への心配りのひとつとして身につけていた。さらに、Eメールやファンレターも自分について書かれているため、他の読解教材と比べ身近なものとして感じられ、読もうという強い動機が生まれてくるようである。しかしながら、辞書はほとんど活用していなかった。一般の学習者の場合、辞書は、習得過程で起きた問題の調整を果たす有効なリソースのひとつと見られるが、相撲用語の使用頻度が高い相撲界では、事情が異なるかもしれない。他には、ビデオ、漫画、電話、インターネットなどといったリソースを使用していると報告されているが、こうしたリソースの中では、日本人行動ネットワークがもっとも有効なリソースとして活用されていた。

6 自律学習を促進させる教室活動とは

自律学習は教室場面でも可能

7 学習ストラテジー・トレーニングとは

自律学習とポートフォリオ

学習者は、自らの学習プロセスを、どのように認識すべきか

これまでの評価は、プロダクトに偏りがち

ポートフォリオとは→メタ認知的な自己モニターを行い、自律学習を促進するための手段

ポートフォリオの導入は、教師主導で行われてきた

学習者主体のポートフォリオの利活用の方法

学習支援者に依存しないで、自分で学習のイニシアティブをとり、仕事や生活の中でも言葉を学んでいけるようになる必要がある。言い換えれば、学習者の方たちが日本語の学習に対して当事者意識をもって、積極的に取り組むことが大切だということです。そのために、日本語教室での活動には以下のような仕掛けが必要である。

・日本語ができるようになったら何をしたいかという長期的な目標と、具体的で現実的な

短期目標をもつ。

- ・ 学習者が学習の内容や方法について選択権をもつ。
- ・ 学習者が学習活動の計画に積極的に関与する。
- ・ 学習者と学習支援者が定期的に学習の進行状況を振り返り、問題があれば解決するための方策を考える。
- ・ 学習者が学習について他の学習者とも話し合える機会を作る。
- ・ 学習支援者は学習者ができることはやらない。
- ・ 学習支援者は必要なら学習についての情報やアドバイスを提供する。

8 反転授業から、これからの日本語教育を考える

反転授業→教育の新たなイノベーション

反転授業とは、動画講義を事前活動とし、教室では学びあいや協同学習などの発展的な活動を行う。日本語教育の観点からは、教師が、メタ認知ストラテジーを活用しながら、学習者全員に、事前の理解度をできるだけ高めるように働きかける

ワークショップ

時間があれば、休憩時間中に読んでおいてください

「反転授業「知っている」4割 高校・大学教員ネット調査」朝日新聞 2014 年 2 月 20 日

反転授業を採り入れた自律学習

予習と反転授業との違い

反転授業は、「予習して授業に臨むということ」ではない

教科書を読んでノートにまとめてくるやりかた（従来型予習）では、学習者個人によって、理解度が異なる（30%、50%、80%、100%程度の理解達成）

できる学習者は 100%だが、できない学習者は、いつまでも 10~30%どまり！

→反転授業では、クラスでの授業が始まる前に、全員が 70%程度の理解度をめざす

「教科書を読んでくる予習」では達成できない学び→「全員に動画講義を事前聴講させる」という予習

なぜ動画講義か？

→「教科書を読んでもわからないけど、先生に説明されると分かる」ことを活用した

5分程度の確認の時間を取るだけ

「従来の予習では理解度が低いため、教室で結局、授業をやらなくてはならず、学びあいや協働学習(例:ピアラーニング、ペアワーク、グループワーク)の時間を確保できない」

課題: 学習者全員にタブレット端末を配布することは無理

ビデオ視聴 早稲田大学「オンデマンド講座: テーマ型 留学学習プランを考える」

反転授業のデザインは、タブレット端末がなくても可能

すべての授業を、反転授業にする必要はない

少人数よりも、比較的大きなクラスサイズで有効

課題(グループワーク)

- 1 あなたが教えるクラスで、最も反転授業を試みたい授業は何か、またそれはなぜか
- 2 どのような内容の動画講義にしたいか
- 3 クラスでは、どのような確認作業をさせるのか
- 4 クラスでは、どのような「学びあい」や「協働学習」をさせたいか
- 5 授業終了後、学習者に、どのようなフィードバックを行いたいのか